2023年度

事 業 計 画 書

100th
Co-Creating the Future of
Fuji
1925-2025

学校法人　藤学園

目次

1　学園の概要 1

(1)　建学の精神 1

(2)　藤学園の沿革 2

(3)　藤学園の未来共創ビジョン 3

2　2023年度事業計画の概要 4

(1)藤女子大学 5

【1】基本方針　5

【2】重点項目　5

【3】教育・研究事業計画　5

【4】施設・設備事業計画　6

【5】その他の事業計画(人事・財務等)　7

(2)藤女子中学校・高等学校 7

【1】基本方針　7

【2】重点項目　7

【3】教育・研究事業　8

【4】施設・設備事業計画　9

【5】その他の事業計画(人事・財務等)　9

(3)幼稚園　各園 10

【1】基本方針　10

【2】教育・研究事業　11

【3】施設・設備計画　13

【4】その他の事業計画　13

1 学園の概要

(1) 建学の精神

教育基本法及び学校教育法に従い、設立母体である殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会が掲げるカトリックの精神に基づいて、人間性豊かな教育を行うことを目的とする。

＊＊＊

藤 学 園 の 教 育

ひとりひとりの　咲くべき花を　咲かせよう
うつくしく　やさしく　しなやかに

藤学園の教育は、キリスト教の愛の精神に基づいて、
全人格的な人間育成を目指しています。

カトリックとは「普遍」の意味であり、
特定の民族・人種・国家・文化などに
とらわれない教えであることをあらわしています。

それぞれの教育段階に応じて
知的、精神的、宗教的真理の探求に励み、
人々への貢献、女性としての固有の特性を正しく認識し、
賢明にして包容力のあるあたたかい謙虚な人格を
育てるように努めています。

また、神に愛され生かされている自己の存在の神秘を知り、
聖なるものへの感謝と
畏敬の念を大切に育てることを目標にしています。

(2) 藤学園の沿革

1920(大正9)年本学園の創設者であるキノルド司教は、札幌での布教活動の中で、北海道の発展のためには、とりわけ、女子教育が最も重要であると考え、本国ドイツから修道女を招きました。師とともに3人の若き修道女は、信仰心に支えられた情熱と勇気をもって、異国の地札幌に確固とした愛の教育の根を下ろし、今日の藤学園の礎を築きました。

1925(大正14)年「札幌藤高等女学校」として入学者167名で発足しましたが、その後の出生数の急増等に伴い、道内を中心に幼稚園、高等学校、大学等を相次いで開設いたしました。

1934年には、現在の小樽にマリア幼稚園(現小樽藤幼稚園)を開設し、続いて1938年に札幌市に藤幼稚園を開設し、その後も函館藤幼稚園、旭川藤幼稚園、青森藤幼稚園、苫小牧藤幼稚園、草加藤幼稚園、大麻藤幼稚園の8園を1968年までに開設しています。
また札幌藤高等女学校は、1948年に新制度施行に伴い、藤女子高等学校全日制課程普通科、同中学校として承継されています。

1947年には、専門学校令により藤女子専門学校(国語科・生活科)が認可され、続く1950年に藤女子短期大学(国文科・英文科・家政科)の開設へと引き継がれています。

1953年には、藤学園旭川高等学校(現旭川藤星高等学校)を開設、翌年藤学園旭川中学校、新懇藤学園中学校を開設し、1956年には北見藤女子高等学校(現北見藤高等学校)、同中学校を開設、1958年には新懇藤学園高等学校を開設しています。

1961年には、北海道初の女子大学として、藤女子大学文学部(英文学科・国文学科)を開設し、1992年には人間生活学部(人間生活学科・食物栄養学科)を設置、2000年には短期大学を改組し、文学部に英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科の3学科、人間生活学部に人間生活学科、食物栄養学科、保育学科の3学科を設置し、2002年には大学院人間生活学研究科を開設しています。また、2020 年 4 月には保育学科を改組し、小学校教諭養成課程を併設した、子ども教育学科を設置いたしました。

創立から 90 有余年を経るなかで、学園開設の各校は、社会情勢の変革の中で、カトリックを理念とする教育の進展のため、一部の学校は共学化にともない設置者を変更するなどの改変を行い、2023 年度の藤学園は、幼稚園 5 園、中学校1校、高等学校 1 校、大学1校の8校を設置し、在籍者数 3 千余名を擁する総合学園として「建学の精神」を受け継ぎながら、さらに教育研究の充実に努めてまいります。

（3） 藤学園の未来共創ビジョン

藤学園は、2025年に大きな区切りとなる学園創設100周年を迎えますが、その歩みは、カトリック札幌教区初代教区長ヴェンセスラウス・キノルド司教が、「北海道の未来は女子教育にある」との確信のもとドイツから招聘したシスターたちによって、1925年に開設した北海道初の5年制の札幌藤高等女学校に始まります。爾来、幼稚園・中学校・高等学校・大学を擁する総合学園として今日を迎えています。

100周年を越えて次代に繋がる第2世紀を見据えて、園児・生徒・学生・教職員・保護者・卒業生が共に学園の未来を創造することを目指して、2030年までの学園のビジョンとして「藤学園の未来共創ビジョン」を定めました。

◇◇◇藤学園の未来共創ビジョン◇◇◇

◎　未来の平和と共生社会に貢献する人材育成

○　未来を切り拓く藤～学びから創造力を養います

○　地域とつながる藤～社会貢献を推進します

○　世界ではばたく藤～国際理解・交流を深めます

○　個性の花咲く藤～チャレンジを応援します

○　信頼される藤～学生・生徒・園児を守る環境を整えます

◎　具体的目標

○　キリスト教的人間観に基づく人間教育

○　共生社会に必要な人間理解と国際理解

○　子どもたちの健全な成長に貢献

○　世界の貧困・飢餓・難民問題に貢献できる人材育成

○　母なる地球の環境に対する意識を涵養

○　卒業生・保護者との連携強化

未来を担う女性、未来を育てる女性として、一人ひとりに与えられた個性豊かな能力を開花させるよう、心豊かで自立心に富み、創造性と知性に溢れた人間を育てます。
幼稚園・中学校・高等学校・大学のそれぞれの成長段階に応じた具体的目標を立て、その実現を目指します。

2　2023 年度事業計画の概要

藤学園は 2022年 1 月、カトリック精神に基づく教育を建学の理念として共有する、学校法人天使学園との法人合併に向けて「法人統合協議会」を設置して協議を重ねてまいりました。
法人合併に向けた基本合意事項の下で、合併後の法人名称や具体的な合併契約内容等について検討を続け、本年 3 月の両学園理事会・評議員会で合併契約書の締結による合併を決議する運びとなっています。
合併契約書の概要は以下の通りです。
(1)法人合併の期日は、2024 年 4 月 1 日とすること
(2)法人合併後の法人名称は、「学校法人藤天使学園」とすること
(3)存続法人は藤学園とし、合併後に天使学園は解散すること
(4)法人の所在地は、札幌市北区北 16 条西 2 丁目 1 番 1 号に置くこと

2023 年度は、この合併契約書に基づき、文部科学省等の所轄庁に、合併後の寄附行為をはじめとした必要書類を作成・取り纏めて、合併認可を申請いたします。

学校法人のガバナンス改革の旗印のもとに進められてきた私立学校法の改正は、学校法人制度改革特別委員会の議論を経て、私立学校法改正法骨子案が提示され、本年 1 月には改正法律案が閣議決定を経て国会で審議されています。施行は 2025 年(令和 7 年)4 月 1 日とのことですが、法人合併後の体制を整備するうえでも、改正法を注視しながら、引き続き法人統合協議会で検討してまいります。

2022 年 4 月より、学校運営の基盤を成す学園の事務機構を改編し、法人事務局と大学事務局を統合して、新たに事務局管理部を置き、そのもとに財務管理課を設置しています。また、組織改編と併せて学園各校の運用資金を年度半ばに一元化して、運用効率の向上により利息等収入の増加を図るようしていますが、2023 年度は期首からその成果が現れることから、2021 年度決算額の 3 倍以上の金額を計上できるよう、リスク管理を徹底しながら取り組んでまいります。

これらのほか、学生・生徒数の減少による学生生徒等納付金の減少を補うべく、寄付金や付随事業収入等の増加に取り組みます。

2020 年にパンデミックが宣せられた「新型コロナウイルス感染症」は、本年 5 月には感染症法上の位置づけが、インフルエンザ等と同等の 5 類感染症となることで、ようやく終息が見えてきていますが、設置する各校・園は、油断することなく、引き続き学生・生徒・園児の健康と安全に最大限の配慮を行いながら、教育・研究の充実に取り組んでまいります。

2025 年には、藤学園の淵源の札幌藤女子高等学校創設 100 周年を迎えます。その節目を超える次の時代に向けて、学園・各校・園が一体となって、学生・生徒・園児の目線に立った教育の進展に努めてまいります。

学校法人藤学園の設置する各校の、2023 年度の事業計画は以下の通りです。

(1)藤女子大学

【1】基本方針

教育・研究の一層の高度化により本学のプレゼンスを高めるべく、成果が上がっている既存の取組みを着実に推進していくとともに、「藤女子大学未来共創ビジョン」を具現化するため、第Ⅱ期(2020～2022 年度)アクションプランに掲げられた諸課題の達成度を踏まえて予算編成を実施する。

収入予算については、事業活動収入の 80%超が学生生徒等納付金である実態を踏まえ、学生数の確保が財政上の喫緊課題と認識し、入学定員を充足することを目標とする。

また、補助金、寄付金、受託事業収入等の外部資金獲得に努め、特に中長期的な事業計画を推進するための寄付募集については、積極的な募金活動を展開する。

支出予算については、支出総額の抑制を図るため、人件費の在り方の見直し(入試手当の削減、その他人件費の引き下げの検討)を行うとともに、予算配分の抜本的な見直し(予算部門ごとのシーリングの設定及び事業のスクラップ＆ビルド等)を実施する。

一方、緊急性が高く、教育環境の向上に資する事業については、ヒアリングを経て「特別予算」として優先的に配分し、意欲的な取組みの推進を図ることとする。

【2】重点項目

(1)新たな大学ガバナンス体制及び教学マネジメントシステムを検討し、教育改革に応じた教育組織や内部質保証を強化するため教職員組織の再構築を図る。

(2)前年度に新設した「教育メディア運営センター」を中心として、将来に向けたデジタルシステムを検討し、ICT を活用した学修環境の整備を図る。

(3)前年度に新設した「グローバル教育センター」を中心として、国内外の様々な問題に取り組むことのできる人材の育成を推進する。

(4)アフターコロナにおける学修環境を整備する。(対面授業化におけるオンライン授業、LMS を活用した取組みの充実等)

(5)多様なステークホルダーに宛てた情報公開や広報活動を速やかに行えるよう学内情報を整理し、適切な情報発信及び web コンテンツの充実を図る。

(6)研究力推進のための新たな制度の定着を図る。
(研究業績プロを活用した研究業績評価及び研究支援・奨励費助成制度の定着)

(7)大学認証評価(2023 年度実地調査)に対応するための準備を着実に実施する。

(8)天使大学との教育・研究・事務をはじめとする様々な分野における連携について検討・実施する。

【3】教育・研究事業計画

(1)アカデミックアドバイザー制の導入により多様化する学生に対応した教育支援を行うととも

に、入学前教育との連続性を踏まえた初年次教育のあり方について検討する。

(2)多様な学生に対応するために学修支援室を開設し、サポート体制の充実に努める。

(3)学生個々の学修履歴の記録・振り返り等を支援する仕組みを構築するため、本学に適した学修ポートフォリオシステムの形態を構想する。

(4)SA(Student Assistant)の活動をより一層拡大するため、大学の行事や企画等への参画を促し、活動の定着を図る。

(5)教養科目における国際理解教育及び英語運用能力養成の実効性を高める英語教育プログラムの充実を図り、その成果について検証する。

(6)GPAを利用した学習指導に係る制度の評価と見直しを実施するとともに、成績評価体制としてのアセスメント・ポリシーを構築し、学修成果の可視化を図る。

(7)各学部・学科の特徴を活かし、学生の参画を得ながら、全学の教育プログラムにおける教育活動を改善するための FD 活動を推進する。

(8)LMS(Learning Management System)の積極的な活用を図り、ハイブリッドな学習環境でも導入可能な PBL や Active Learning の模索も含めて検討する。

(9)科研費等外部資金の申請・採択率向上を目指し、科研費申請様式に準じた研究計画書の提出の義務化と、科学研究費申請のための研修会を着実に実施する。

(10)キャリア教育が学年の進行に合わせてスムーズに進むよう、必要な科目や機会をさらに充実させる。また、インターンシップの単位認定制度の導入を検討する。

(11)危機管理体制を見直し、災害発生時等に迅速かつ実質的に機能できる体制、マニュアル等を早急に整備する。

(12)公開講座・講演会等の企画の充実や効果的な広報のあり方についての検討を通して、社会貢献事業の定着と強化に努める。

(13)産学官連携事業の推進・活性化のため、産学官連携を含む複数の事業を統括する部署の設置を検討する。

(14)IR(Institutional Research)の基盤となる本学に関する諸情報を集約・整理・分析し、課題と改善策の検討及び内部質保証における検証の役割を補完する。

【4】施設・設備事業計画

(1)講堂棟屋上防水工事

(2)花川校舎事務室エアコン新設工事

(3)花川校舎体育館外壁修繕(文部科学省補助金申請)

(4)花川校舎 2F 大講義室空調機更新工事

(5)中庭イルミネーションの検討(関連イベント、広報活動の検討)

(6)セミナーハウス改修工事(今後の利用目的が確定した場合のみ実施)

【5】その他の事業計画（人事・財務等）

(1) 第Ⅲ期アクションプラン（2023～2025 年度）と関連付けた中長期計画及び財務計画を策定する。

(2) 新たな予算策定方式（管理会計に資する業務目的別予算等）について検討する。

(3) 人件費の削減方策に関する検討を進める。（入試手当の削減及びその他人件費の引き下げ、非常勤講師及び開講科目数の縮減等の検討）

(4) 現行の奨学金制度の見直しを行い、優秀な人材確保と経済的支援の両面から新しい奨学金制度を創設し、学修支援の充実を図る。

(5) 年次計画によるSD研修会を着実に実施し、情報や知識を共有することで教職員の資質向上を目指す。

(6) 同窓会（藤の実会）の役員との意見交換の場を設け、生涯教育やホームカミングデー等について協議を行う。

(7) 藤女子中学・高等学校との会合を定期的に開催し、連携・交流の強化を図る。

(2) 藤女子中学校・高等学校

【1】基本方針

2016 年1月に策定された「藤学園が設置する中学校・高等学校における新たな行動計画『ニューアクションプラン』（自 2016 年度至 2020 年度：5カ年計画）」の実現をはかるために、

(1)カトリック女子校としてのアイデンティティの深化

(2)責任ある学習指導と確かな進路実現を図る学習プログラムの改革

(3)入学者数の安定的確保を図るための広報・生徒募集の活動の強化

(4)長期的・安定的学校運営を図るために財務状況の健全化

以上の 4 点の基本方針を設定し、2019 年度まで教育・研究事業計画を実行してきた。2020 年度からは「藤女子中学校・高等学校の未来共創ビジョン」に沿った基本方針を設定している。

【2】重点項目

(1)未来を切り拓く藤～学びから想像力を養います

変化の激しい時代にも対応できる学びの質を追求し、生徒が豊かな教養と生涯学び続ける姿勢を身につけるように導きます。

(2)地域とつながる藤～社会貢献を推進します

生徒が良心に従って誠実に行動し、家庭や社会の中で他者のために貢献できるよう導きます。

(3)世界ではばたく藤～国際理解・交流を深めます

生徒が多様な文化への理解を深め、国際人としてのコミュニケーション能力を高められるよう

導きます。

(4)個性の花咲く藤～チャレンジを応援します

一人ひとりの生徒を神から愛されているかけがえのない存在として尊重し、自己肯定感を高め、視野を広げる学びの場に生徒が挑戦できるよう導きます。

(5)信頼される藤～生徒を守る環境を整えます

安定的な学校運営を行い、災害等あらゆる危機から生徒を守り、安心して学ぶことができる環境を整えます。

【3】教育・研究事業

①本校の教職員として果たすべき使命や役割を再確認し、各自の年度内目標を達成する。

②カトリック学校の教職員としてその理念を具体的に教育活動に生かすために、また対話による女子教育を深めるために研修を行う。

③日常の挨拶やマナー、ネットマナー、ネットリテラシー教育を定期的・継続的に実施する。

④伝統的に行われている宗教行事や瞑目、清掃指導の意義や実施方法を再確認し、全教職員が一体となって取り組む。

⑤65 分授業に対応した各教科の 6 年間の指導計画(シラバス)に基づき、学習到達度をベースにした評価法を検討する。

⑥授業改善・授業力の向上に努め、教職員も相互に授業見学を行う。また、65 分授業についての研究発表等を実施する。

⑦中学学力推移調査、高校模擬試験の結果から学年・教科ごとの課題を職員会議等で共有し、各層の生徒を伸ばす効果的なプログラムを実践する。

⑧生徒が自学自習の習慣を身につけ、家庭学習時間を確保するための 6 か年の進路指導計画を構築する。

⑨思考力・判断力・表現力を深めるために生徒がより主体的に取り組む行事の在り方を検討し、その成果を検証する。

⑩一人一台の端末等のICT を活用した授業・行事の研究と、校舎内の安定したインターネット環境の整備を行う。

⑪LHR や行事を通して身近な環境問題や社会福祉活動等について学び、生徒のボランティア活動を促進する。

⑫学校祭、オーケストラ部定期演奏会を広報し、地域住民との交流を行う。

⑬成績優秀な生徒に対してクサベラ・レーメ奨学金等を給付し、就学支援を行う。

⑭外部プログラムなどによって、SDG's等について学び、その解決のための主体的・具体的な行動が可能になる機会を設ける。

⑮国際教育の在り方を精査し、オンライン交流、国内研修等多様な国際交流等を検討する。

⑯英語力の向上を目指し、LC のレベル別選択授業や英検講座等の内容を充実させる。

⑰SHR での瞑目や祈りを大切にし、生徒が物事の良い面を見つめ、感謝でき、他者に対する

思いやりを持てるように導く。

⑱感染症対策を行いながら、生徒の非認知能力を一層高めることができる取り組みを実践していく。

⑲女性が活躍するために、ロールモデルとなる人物の講演会や、生徒の視野を広げる学びの場の計画的・継続的な提供を行う。

⑳保護者との連携を強化するため、新しい教務システムの更なる活用を推進する。

㉑感染症発生・災害時に対応できるよう備蓄品を確保し、教職員で定期的な訓練を実施する。また危機管理マニュアルを整備する。

㉒PTA におけるより活動しやすい体制を検討し、保護者と教職員の協力の元で実施・運営していく。

㉓生徒数に応じた学級数と人件費などの適正化を行い、安定した学校経営を行う。

【4】施設・設備事業計画

(1)施設及び設備の適切な維持管理、施設の長寿命化

①緊急補修工事費 10,000 千円

②校舎南側安全フェンス設置 3,410 千円

(2)新型コロナウイルス対応も踏まえた ICT 機器類等効果的な運用と備品等の環境整備

①教員用ファイルサーバー一式 7, 510 千円

②広報用グッズ(手提げ袋、ファイルほか)購入 1,000 千円

(3)その他

①デジタルサイネージ広告 550 千円

②姉妹校関連費用 600 千円

③授業料減免奨学費 8,186 千円

④オケ・ファゴット購入 906 千円

【5】その他の事業計画(人事・財務等)

(1)効率的で効果的な教職員配置

①2022 年度定年退職者

②2022 年度教育課程に基づき時間講師の活用を含めた教職員の適正配置

(2)労働契約法、パ有法改正を踏まえた同一労働同一賃金問題の課題解消

(3)事務の効率化

①事務ポータルサイトの活用

②教職員個人メアドを活用した校内情報の伝達

(4)創立 100 周年記念事業実行委員会の議論を踏まえた事業の調整・実施

(3)幼稚園　各園

【1】基本方針

キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供をかけがえのない存在として大切に育み、健全な心身の発達と人格形成の基礎を培う教育

【2】重点項目

(3)-1　藤幼稚園

・藤学園の建学精神に基づく教育内容をさらに深め、本園の特色あるモンテッソーリ教育の質の向上に努める。

(3)-2 小樽藤幼稚園

・2023 年度　園児数　37 名でスタート(年長 14 名　年中 13 名　年少 10 名)予定

・いちご組(2 歳児　現在 10 名在籍)で入園した園児を、確実に幼稚園入園に繋げ、次年度の利用定員 60 名に近づけたい。

・2 歳児クラスの需要は感じているが、人手も必要となるため人材確保が最重要課題である。

・次年度は未就園児クラスを「ふじっこキッズ」「ふじっこベビー」の 2 クラス開設する。0～1 歳からの子育て、親育てを応援し、地域に根ざした幼稚園を目指したい。

・ホームページのリニューアルを進めている。藤幼稚園の魅力を皆さんに知っていただけるよう、インスタグラムと並行して充実させていきたい。

・引き続き、国の方針に沿いながら、園生活で必要な感染対策は継続、緩和できる部分と見極めていく。

・特別支援に関しては、小樽市の保健センター、児童発達支援施設との連携を深め、子どもたちの発達に必要な援助の方法を探っていく。

(3)-3 函館藤幼稚園

・新任保育教諭育成に励むと共に、教職員の資質向上を図る。

・幼児の発達段階に応じた遊具・教材などの環境を整える。

・教職員の協力や連携体制を整える。

(3)-4 苫小牧藤幼稚園

・藤学園の幼稚園としての建学の精神を大切に子ども達一人ひとりが、神様の愛を知り、人として大切な心の教育が幼児期にしっかりと築いていけるように、また、保育者も一人ひとりの子ども達を大切にしながら、子ども自身の良さを認めながら、自分で考え行動していけるような子ども主体の保育に努めていく。

(3)-5 草加藤幼稚園

・子どもたち一人ひとりへの細やかな配慮を怠らないこと。子どもたちの心とからだの安全確保を何よりも優先させること。

・団地跡地の大規模再開発に伴い、園児及び保護者の安全の確保(交通安全)に最新の注意と配慮を怠らない。この 3 月末から周辺の再開発で約 400 戸 の住宅建設のための造成が予定されおり、更なる安全意識の向上と確保に努めること。

・近年、埼玉県において重点がおかれている特別支援教育に本園も積極的に参画し、発達支援サポーター育成研修を重ね、全教職員が心を合わせて障がいのある園児に対して細やかな忍耐深いケアを行うこと。

・本園の卒園児童への配慮:月曜学校の継続実施(現在はコロナ対策で休止中)。(幼保小連携推進に積極的に協力する)

・少ない人材で最大効果を具現するために、相互の仕事の大切さを認め合い、それぞれの力を有効に活用する一致団結の精神を持つことを求める。

【2】教育・研究事業

(3)-1 藤幼稚園

・異年齢混合の縦割り保育形態の良さを発信していく。

・園内研修を深め、継続して園児たちに還元していきたい。

・本園の特色である宗教教育、モンテッソーリ教育を中心とした質の高い幼児教育の方向性をいかに維持していくか、園内研修を深めたい。

・地域子育ての相談役として、未就園児クラスの親子に幼稚園にきてもらい、藤幼稚園の魅力を知ってもらう。そして、入園につなげていきたい。

(3)-2 小樽藤幼稚園

＊健全な園経営の充実を図る＊

・今での保育の構築は大切にしながらも、今の子どもたちに必要なものがあれば新しく取り入れ、一人ひとりが充実した園生活を送れるよう保育計画を作成していく。

・引き続きオンライン研修中心にはなると思うが、職員が積極的に自ら学ぶ意識をもって研修に参加する。また、その機会を作る。

・小樽地域内の施設や人材を充分に利用し、保育に活用する。(おたる水族館、小樽市博物館、地域の公園など。保護者の保育参加など)

・コロナウイルスも落ち着いてくることが予想されるため、食育の充実を進めていく。

・行事に捉われず、日々の生活の中で発見したこと、興味を持ったことを保育に生かし、子どもたちが遊びこめる環境づくりをしていく。

(3)-3 函館藤幼稚園

・園内・園外の研修の充実を図る。

・2 歳児保育・教育の充実を図るとともに、入園に繋げていく。

・研修大会に向けての研修・実践保育の向上を図る。

(3)-4 苫小牧藤幼稚園

・一人ひとりの職員のスキルアップを図るため、それぞれ自己研鑽に努め、研修を通して学びの場を増やしながら、お互いを高め合っていけるようにまた、”大切にしていきたい一人ひとりの子ども達を見る丁寧な保育”は今年度も再度見つめ直し、保護者への対応、信頼関係を築き、信頼を持ちながら大切にし、今後も環境設定を見つめ直し、子ども達の安全、遊びの充実を図り、一人ひとりの子ども達が自分で考えて楽しめる保育、またその子自身の成長段階に合わせ課題を持ちながら、遊びを通し、友だちとの関わりを通して成長していけるような保育を目指していく。

・障がい児支援を必要とする園児については細やかなケアを日々研究し、園生活を通して子ども達一人ひとりの成長を全職員が共通理解し、指導・配慮していけるように心掛ける。

(3)-5 草加藤幼稚園

・モンテッソーリ教育法を取り入れている本園は、この教育法の精神を更に具現化するために、人的・物的環境の一層の整備に配慮する。

・希望者に対するモンテッソーリ教員養成コースへの参加承認及びこれに伴う配慮をする。

・埼玉県が目指している子育ての目安「3つのめばえ」について研究し、モンテッソーリ教育法との整合性を確認し、本園の幼児教育のあるべき姿について認識を深める。「三つのめばえ」:生活、他者との関係、興味・関心

・カトリック幼稚園として、可能な限り、日本カトリック幼稚園連盟主催の研修会に参加(参加が困難な場合には資料研修)することによって、カトリック幼稚園としての自覚・意識を新たにするように努める。

・草加市幼児教育充実事業(子どもたちの豊かな心を育み、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図るため、幼児の発達に必要な体験機会を充実させる)を推進する。同時に、家庭教育支援活動を行う。

・地場産業である草加せんべいの製造方法を体験的に知る機会を持つ。(草加せんべいの手焼き体験学習)

・年長児対象「お芋ほり」体験。(自然豊かな歴史的遺跡である赤山城址に近接する田中園で自然の実りの収穫を体験する)

・年長児対象で松尾芭蕉ゆかりの松原松並木散策を通じて草加の歴史を体感する。

・年長児対象のお別れを実施する。(すみだ水族館)　東武スカイラインの利用による、交通安全対策と教育の実践。

・モンテッソーリ教育法の中心的理念である日常、言語、感覚、算数、文化などの集大成として「お料理会」を実施し、買い物、料理、配膳などを体験する。年中、年少、満三歳児も参加し年中、年少、満三歳児も参加できるように工夫し、年長児の姿から学ぶように準備する。
・各季節の行事（子どもの日、七夕、七五三、クリスマス、ひな祭りなど）を通じて、日本の文化の意味を感じ、素晴らしさを体験する。

【3】施設・設備計画

(3)-1 藤幼稚園

・1階保育室前廊下床張り替え工事

(3)-2　小樽藤幼稚園

・保育室のエアコン設置
・園児用トイレの改修、水廻り設備の補修

(3)-3 函館藤幼稚園

・WIFI　ルーターを拡大する。
・大型遊具の塗装
・保育室・遊戯室　エアコン設置工事
・2024 年度　4 月に向けての天使大学との合併による法人名変更の為の設置看板・園バス等の変更に係る費用決定後になります。

(3)-4 苫小牧藤幼稚園

・行事等で保育者が来園する時の駐車場を今後も確保していけるように進めていきたい。
・建物の劣化による見直し、今後を見通しての計画性を持ったリノベーション。
・建物の安全を考え計画的にメンテナンス、補修・入れ替え。安全な保育環境の設定・設備。

(3)-5 草加藤幼稚園

・老朽化の域に達している園舎であるが、この温もりのあるレトロの雰囲気を維持するよう点検を重ね、必要な小規模修繕を行う。
・周辺の環境が新しく激変することを意識して、それとの釣り合いを考え、施設の安全強化（腐食し始めているフェンスの塗装）、屋上の防水対策等を徐々に進める。

【4】その他の事業計画

(4)-1 藤幼稚園

・園の魅力の発信、教職員の働き方改革等を目指して、園のホームページをリニューアルする。

(4)-2 小樽藤幼稚園

・2 歳児クラスの対応、特別支援の観点から、正職員、パートを問わず人材確保が急務。

・新人の教諭の採用し、年齢層の幅を広げたい。

・主任の確保・・主任という職員間の要になる存在が不在である。フリーの立場の正職員という意味でも、主任教諭を確保したい。

(4)-3 函館藤幼稚園

・新卒者 1 名　採用　　年長　1 クラス　年中　1 クラス　年少　2 クラス　保育部 1.2 歳児　　一時預り事業一般型(2 歳・1 歳半)・幼稚園型

・年少園児 3 歳児　4 月 1 日現在 34 名の為　満 3 入園児については、現状により対応していく。

(4)-4 苫小牧藤幼稚園

・時間を上手く活用し、働きやすい職場作りに努め、仕事の負担の軽減により、保育の活力につなげられるように心掛けていく。

・職員同士が上手く打ち合わせの時間を作りながら、お互いを切磋琢磨し合いながら協力体制を大切に教育の資質向上に努める。

・園児確保のため、2歳児クラス・親子教室等の充実を図り、また保護者が園を知ってもらえるための企画を考え、新しいことにチャレンジしていく。

(4)-5 草加藤幼稚園

・園児の増加に向けて未就園児クラスの活動など、可能な努力を行うと同時に、節約に心がけながら持続可能な社会の実現に寄与する。

・幼稚園運営のために、県を始め地方自治体からの補助を受け、本園の幼児教育の質を保持し、協働者(教職員など)への可能な限りの配慮(人間関係、経済的向上など)をする。

・園の発信力を高めるために、ホームページの改善や他の発信方法の充実を図っていく。

以上